

見える世界と見えない世界②
思考と運命

浅野^{よし}介^{ひろ}敬(良裕)

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。
習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。
性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

(マザー・テレサ)

運命とは一般的には、人間の意思にかかわりなく、身の上をめぐる吉凶禍福。それをもたらす人間の力を超えた作用といわれています。人は自分の思いや努力の範囲を超えた出来事に出会うと、それを運命と呼ぶことが多いと思います。人の力を超えた見えない世界からの作用。それに翻弄される人間。

しかしこれは本当でしょうか？ 想定外の出来事としての運命は、ただ単に人間が知らなかった・見えなかつただけでその原因は自分自身にあるのかもしれませんが。

マザー・テレサはこの運命を決めていくステップとして、思考、言葉、行動、習慣、性格の5つをあげています。心の中の思い、考えが、言葉や行動として現実化し、それが習慣や性格にまで固まっていくことによって、運命に至るという流れです。

この流れを貫いているものは思考です。しかしこのステップは当初の思考が順番に運命になっていくというような単純なものではありません。

心の中の思考は、必ずしも明確なものでなく、常に動く流動的なもの、可変的なものです。この思考が発せられたり、文字になることによって、思考自身の誤りや、不完全さが見えてきて、その思考自体が変わっていくことでしょう。またそれ以上にその思考が行動に移ることにより、思考の不完全さが見つかり思考が変わり、それによって行動も変化していくことでしょう。(P D C Aサイクル)

同じように習慣や性格の段階になっても思考は変化していきますが、習慣や性格になると、固定して変え難い、変化できないものと思われるかもしれません。これは私の性格だからという、そこで思考停止してしまいます。

そして運命の段階になると更に変えられないものと思われてきます。

しかしながら、この思考からの流れを段階を追って観て行くと、運命そのものも、思考を変え、言葉や行動、習慣、性格を変えていくことによって変えられるものと考えられてきます。

運命とはわれわれ自身の人生とっていいと思います。

思考に気を配り、言葉に配慮し、行動を意識化し、習慣を反省し、性格も良くしていき、これらすべてのプロセスを思考・意識的に行うことにより、見えてくる世界は拡がり、人生は変わっていくことでしょう。

問題はどのように思考するかですが、思い考えるだけでなく、言葉から、行動から、習慣から、性格から学ぶとともに、最も大切なことは、運命から学ぶことかもしれません。